

CyberVantage Tabletop Exercise

経営判断が試される“その瞬間”を、事前に体験する



テーブルトップエクササイズ (TTX) とは？

サイバーインシデント発生時に問われるのは、技術力ではなく**経営判断の質とスピード**です。

SANSのテーブルトップエクササイズは、経営層・幹部が中心となり、リアルなインシデントシナリオの中で

「何を優先し、どう判断し、どう説明するか」を実践的にシミュレーションします。

技術的な対応力ではなく、**有事の際に組織としてどのように判断し、連携し、対応するか**に焦点を当てています。実際のインシデントをもとにしたシナリオが段階的に展開され、参加者は状況を評価し、優先順位を判断しながら意思決定とコミュニケーションを行います。

なぜ今必要なのか？

多くの組織が計画を持っています。

しかし実際の危機では、「計画通りに動けるか」ではなく「その場で判断できるか」が問われます。

この演習では、以下を明らかにします：

- ▶ 意思決定の遅れやボトルネック
- ▶ 経営層と現場の認識ギャップ
- ▶ 不明確な責任・権限・エスカレーション
- ▶ 対外コミュニケーションの脆弱性

「問題が起きてから気づく」のではなく、事前に可視化し、対処することができます。

また、エネルギー、通信、金融、製造など異業種の参加者とともに実施することで、**業界を越えた知見の共有や連携強化**も期待できます。

サイバーインシデントはサプライチェーンや社会インフラに波及するため、こうした横断的な視点は非常に重要です。

経営層にもたらす価値

- ▶ 危機下でも機能する意思決定プロセスの確立
- ▶ 組織全体の対応力とスピードの向上
- ▶ 経営としての説明責任への備え（株主・顧客・社会）
- ▶ 経営チームとしての共通認識と即応力の強化

これは単なる訓練ではなく、「**経営リスクへの投資**」です。

SANSのTTXの特長

実際のインシデント対応を経験してきた**SANSの専門家**が主導します。

今回担当Cyber Vantageの担当をする**Tim Conway**はウクライナ電力網攻撃 (CRASHOVERRIDE) など、国家レベルの重大インシデント分析に関わった実績を持っており、**現実に即した意思決定の難しさ**を再現します。

さらに：

- ▶ 日本の事業環境・規制・リスクを踏まえた設計
- ▶ アクティブ・サイバー・ディフェンスの視点を反映
- ▶ アジア各国での実績に基づくベストプラクティス

机上の理論ではなく、**実際に通用する判断力**を養います。

サイバーインシデントは「起こるかどうか」ではなく、「いつ起こるか」の問題です。

そのとき、経営として「**適切に判断できる準備ができていますか**」

この演習は、その問いに答える機会です。



詳細は Japan@sans.org
または担当者へご
連絡ください。

